（様式第８号）

事業報告書（令和６年度）

事業名　自然探検「こどもの森のしぜんとあ・そ・ぼ」

団体名　特定非営利活動法人岡山市子どもセンター　　担当者名　廣川　祐子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

活動名：「セミの抜け殻調査」

日時：2024 年 7 月 20 日（土）9:00～11:30

場所：国際児童年記念公園こどもの森

講師：多田正和　　助手：今井綾菜（高校生）

参加者：14 人（子ども 9 人、大人 5 人）

内容：①子どもやその保護者と一緒に、決めたコースを全員で歩き、木の上や葉っぱについた抜け殻を採取。

②採取したセミの抜け殻を種類ごとに分類し、個数を数える。
今年の特徴、経年の調査からわかることの意見交換をする。感想を発表。

③集めた抜け殻に枝や葉っぱ等を加えて、各々が記念のオブジェを作成。

④セミの数は、NHK シチズンラボ「セミ大調査 2023」に報告。

（様式第８号）

活動名「セミと遊ぼう」

日時：2024 年 7 月 28 日（日）9:30～11:30

場所：国際児童年記念公園こどもの森

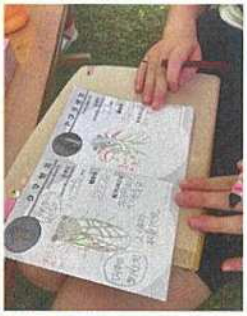
参加者：11 人（子ども 6 人、大人 5 人）

内容：①セミを見つける、採るコツを学ぶ（練習）

②セミを探す、採る　　③観察をする

④セミの様子をスケッチする（ミニセミ図鑑の作成）

網を使ってセミを採る練習をして、自分で捕まえることができるようにポイントを説明しました。最初は、触るのも怖かった子どもが飛ぶときの羽音を聞き、羽根や顔・体を触れるようになり、セミの面白さに気づくことができました。セミをよく見て、スケッチする際に、図鑑と比べてみたり、友だち同士で気づきを話し合ったりして、より深く観察する様子が伺えました。蚊帳を吊るし、その中に捕まえたセミやその他の生きものを放ち、セミが飛ぶ羽音を間近で聞き、飛ぶ様子を目の前で見るという実体験をすることができました。セミに詳しい子どもがいて、その子の解説を興味深く聞く様子も見られました。図鑑を見る際にも、生のセミを見ているので、自分事としてリアルに感じ、図鑑の面白さも体験していました。



活動名：「自然観察会～どんぐりを探してみよう～」

日時：2024 年 11 月 4 日（月・祝）10:00～12:00

場所：国際児童年記念公園こどもの森

参加者：35 人（子ども 18 人、大人 17 人）　　講師：福元隆三（自然観察指導員）

内容：①講師と一緒にこどもの森を散策しながらどんぐりを探す。

②特徴を聞きながら、樹木や落ちているどんぐりを見て触って観察。

③どんぐりを並べて種類と違いを観察。

④味わう（食べる）

前半は、園内にある 11 種類のどんぐりの樹を見て回り、特徴を観察しました。

（様式第８号）

後半は、どんぐりを並べ、茹でたり炒ったりしたどんぐりを食し、味の違いを体験しました。子どもたちは、どんぐりが食べられることに驚き、実際に食べてみると美味しいことを発見。何個も食べていました。身近な公園に 11 種類ものどんぐりがあることがわかり、驚くと共に、その違いを知ることができました。

２．ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

a)「セミの抜け殻調査」では、天候の違いで、見つかる個体数が違うことを体験しました。この数の違いについて「なぜだろう？」と疑問を持ちながら探していました。分類する際には、周りで悩んでいる人には、子どもが見方を教える様子も見られました。初参加の子どもは、最初はこわごわ触っていましたが次第に触れるようになり、敬遠していた生きものが身近になっていました。

観察することで、生き物の細部、動く仕組みを実際に知ることができました。

「セミと遊ぼう」では、生きているセミを捕獲し、観察することで、生体の不思議に気づき、「なぜ？どうして？」と疑問を持ち、図鑑で調べたり、講師にたずねるなどして、より深く知ろうしていました。抜け殻と生きたセミを観察することで、生き物の成長やその不思議に気づき、生体の不思議を体感することができました。また、参加者が多様な年齢だったので、質問をして知ろうとする行動につながりました。

b)自然観察会：自然観察指導員の方々から、五感を使って学ぶことを知り、自然とのつながり、子孫を増やすための仕組みを知り、興味関心が高まっていました。どんぐりの種類について、もっと発見したい！という欲求も生まれていました。

②どのように学び合いを取り入れたか

学んだことを全員で共有することで、あらたな発見につながり、それにまつわるエピソードや助言をもらい、さらに学びを深めることができました。また、書籍や図鑑の紹介などしてもらい、個々に学べる機会をもらうことができました。

子どもたちは、自分で探し、見たものや知ったことを記録（スケッチ）し、友だち同士で意見交換するなかで、保護者やスタッフも巻き込んで話しあい、さらに不思議な点を出し合うこ

（様式第８号）

とで互いに学び合うことができました。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

・耳から学んだことは、忘れてしまいがちなので、記録にとどめるためにスケッチをし、実寸を計測しました。大きさやバランスをリアルに知ることができる手作りのセミ図鑑となりました。
・セミ図鑑は、夏休みの宿題として学校に提出する話もあり、中高学年の子どもは他にも応用できるのではないかと相談をしていました。子どもの創造力をヒントに、次年度の検討事項とします。
・大人は、学んだことを簡単な新聞にして関係者等に配付してお知らせしました。
・セミの抜け殻調査は、NHK シチズンラボ「セミの大調査」に報告しました。この WEB ページでの情報を参加者とも共有することで、日本各地に視野が広がりました。

３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

今年も新たな参加者が増えました。色々な体験を通して、身近なところに自然環境があること、その自然の不思議に気づくことができました。特に大人は、普段気づかないことを知ることができ、この活動に参加したことがある子どもたちの興味関心が高いこと、知識が豊富であることを見聞きすることで、体験することが大切であることがよくわかりました。また、継続した体験を通して、考える力・推測する力が高まることも実感しました。

子どもたちは、他の参加者と一緒に虫を捕まえること、意見交換をすることが楽しいと感じ、生き生きと活動していました。その様子を大人が見ることで大人も刺激を受けていました。
日常生活においても、自然を見る目や実体験が大切であり、そのことを通して他の事象とつなげて考えられることがわかり、喜びになっていました。このことが大きな成果です。

４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

体験の格差が広がる中で、こどもの森をフィールドにした体験活動は、子どもの頃の原風景となり、大人になって興味関心の扉を開くことにつながります。
子どもの頃に身の回りの自然を見て、感じる体験を重ね、知識を蓄積することで、中学生高校生と年齢が大きくなって得た体験や知識とつなげて考えられるようになります。また、多様な年齢の人と共に体験することで、他者と活動することへの敷居が低くなり、多様な人から学ぶことがおもしろいと思えるようになり、次第に自分の世界を広げていくことができます。

実際に、このセミの抜け殻調査に参加したことがきっかけとなり、倉敷の自然博物館に出向くことをはじめとして、自然体験リーダーズクラブの講座を受講したり、県外の関係する施設で研修を受けたりするなど、自らの力で前へと進んでいる若者がいます。セミの抜け殻調査では、4 歳から継続して参加していた子どもが高校生となり、現場に立って講師の助手として活躍しました。この姿は、小学生が将来のロールモデルとして影響を受けると考えます。

また、今年も NHK シチズンラボ「セミ大調査 2024」にセミの抜け殻調査の結果を報告しまし

（様式第８号）

た。岡山での調査が全国とつながり、より広い視野で自然観察をすることにつながっています。参加者にもこの情報を伝え、この WEB ページを見ることで日本各地の様子を知り、興味関心を高めることに繋がります。

この活動は、専門家の方々との交流等を活動計画に学びを入れ、継続していけるよう次年度に繋いでいきたいと考えています。あわせて、子どもたち自身が「やってみたい」ことに挑戦できるようスタッフの資質向上を目指していきます。